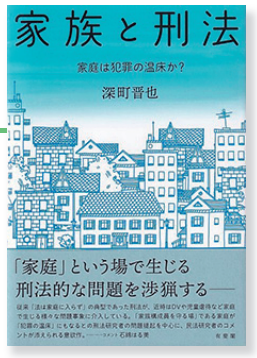
家族と刑法
――家庭は犯罪の温床か？

深町晋也

2021年8月発売／284頁／定価3080円（税込）
A5判／並製

学習　研究　実務　学部　LS　法曹

詳細を見る



Book Information

編集担当者から　本書のサブタイトルを見て，驚いた方もいらっしゃるかもしれません。しかし例えば現在，検挙された殺人のうち半数以上は親族間によるものであり，見過ごすことはできません。「コロナ禍」で家族が自宅にいる時間が増えたことが，家庭内犯罪にどう影響するか，今度の犯罪白書も気になるところです。

目次の通り，本書は家庭内の様々な問題事象について，刑法による解決可能性を論じるものです。各テーマの末尾には，民法研究者（石綿はる美先生）によるコメントが付されています。コメントは計50頁以上に及びます。これにより，読者は各問題を多角的にとらえることができるでしょう。

本書は実務・研究に資することが目的とされていますが，新しい問題事象に対する刑法の当てはめという点で，よい教材という一面も持っています。本誌読者の方にも一読をお勧めいたします。（TS）

Index

I　**一見，刑法に関係なさそうなテーマもありますが，どんなふうに論じられているのでしょうか？**

第1回・第2回　DVの被害者が加害者に反撃するとき（その1・その2）
第3回・第4回　児童が家庭の中で性的虐待に遭うとき（その1・その2）
第5回　家庭において児童ポルノが作り出されるとき
第6回　児童が家庭でタバコの煙に苛まれるとき
第7回　家族によって自分の大切なものが奪われるとき
第8回・第9回　両親が子どもを巡って互いに争うとき（その1・その2）
第10回　死者がその家族によって弔われないとき
第11回　子どもが親による保護を受けられないとき
第12回　子が親から「しつけ」を受けるとき
第13回　妊婦が妊娠中絶に関する情報に接するとき
第14回・第15回　親が子に予防接種を受けさせないとき（その1・その2）